

1階では、和室から吹き抜けのあるリビング、ダイニング&キッチン、奥の板の間と連続。フロア全体が広々としたワンルーム空間に。「段差やドアが少ないので掃除機をかけるのも楽です」(妻)。夏は多摩川からの風が吹き抜け、冬場は太陽熱利用の床暖房で快適に暮らすことができる



(左)落ち着いた色調と安定感あるフォルムによって飽きのこない外観に。掃き出し窓の外に濡れ縁を設けるなど、木を使った和のテイストをさりげなく盛り込んだ。南西に向いた屋根には太陽熱を集めるパネルを設置している
(右)門の木部造作にはヨットの操作舵輪の形の飾りを取り付けた。「私の名刺代わり」と夫は笑う

多摩川の景観を楽しみながら 陽光と風に包まれる。 50代からのゆとりの住まい

東京・稻城市 Hさんの家 ●家族構成／夫55歳 妻55歳 ●本体工事費／3800万円

A案から始まったプランはG案まで検討された。「家全体を無駄なく使ってもらえるように設計しました」と高田さん。その意図は見事に結実したようだ。

夫はヨットやクルーザーを愛する「海の男」。家のそこかしこには船の模型やグッズなどがちりばめられ、2階には船室を模したコノーネも。「せっかく建て替えるのだから、自分の好みの空間にしたかった。高田さんはわがままを言つたけど、うまくまとめてもらいました」(夫)。



高田 工務店

EAST 02

長らく住んだ家を区画整理のために建て替えることに。近所の工務店に頼んだのは、多摩川の景観を取り込んだ、ゆとりある住まい。孫や友人も気軽に遊びに来られるような大らかな雰囲気が魅力の木造住宅となつた。

白い雲の浮かぶ青空。透明感のある日差しと気持ちのいい風。多摩川の河川敷を見下ろすH邸は、アウトドアの心地よさを随所に感じさせてくれる住まいだ。

この家を手掛けたのは、創業から45年以上も地元・稻城市近辺の住宅を建て続けてきた高田工務店。2代目社長の高田良亮さんは、先代から引き継いだ木造技術のノウハウに、太陽熱を利用する暖房&給湯システムを組み合わせ、心身をリラックスさせる快適な住まいづくりを実践している。

H邸の1階は、キッチン&ダイニングに吹き抜けのリビングが続き、和室や板の間までもが一体となったオーブンスペース。友人や孫たちが遊びに来ても十分に受け入れることができる。

海をイメージさせる
アイテムをちりばめて
開放的なムードに浸る



檜の無垢板を張った床に木構造を表としたLDKには、木造ならではの温もりが漂う。吹き抜けからの採光もあり、快適にくつろげる場所に仕上がった



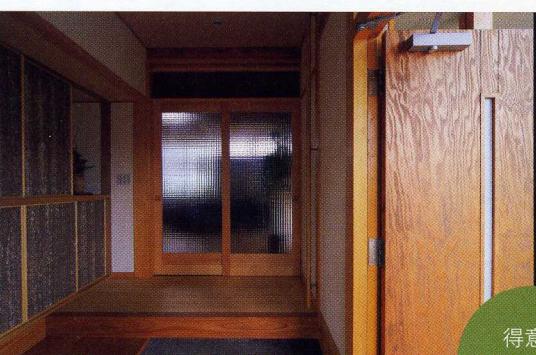
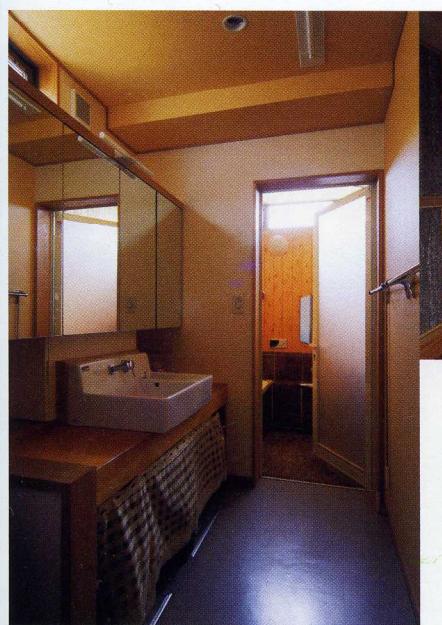
得意技
1

設計力

建主の要望を巧みに取り入れながらもバランスよくまとめる

Hさん夫妻は50代で生活経験豊かということもあり、「人を呼べる大空間にしたい」「多摩川の花火を眺めたい」など様々な要望を持っていた。高田さんはそれらの夢を設計に反映させつつ、夫の趣味であるマリンクルーズの小物もそつなくあしらった。「私たちが目指すのは“創造空間”。要望に沿って設計し、現場の大工・職人のアイデアも生かしてバランスよくまとめていくように心がけています」(高田さん)。

(右上)遊びに来た孫に舵輪の回し方を教える夫。「ここに立つと、海の気分が味わえるんです」(右下)2階のホールから寝室へ続く通路に設けられた夫のためのコーナー。無線や船舶用機器などが飾られている。「ここを通るたびに眺められるのがいい」と夫は喜んでいる (左)階段の上り口の壁にはヨットの模型を飾るニッチが。吹き抜けの窓は多摩川の河川敷の景色を切り取る。屋内ながら豊かな開放感が漂う



得意技
2

木造技術

使いどころをわきまえた“適材適所”の設計・施工

(右)キッチン横の板の間は、板戸によってLDKと仕切ることも可能。隅の火打ち梁を止める金具は、埋め木をして隠された。細やかな配慮を持って見た目にも美しく施工されている (中)大人数の来客にも対応できる間口の広い玄関。式台、框には20年寝かせた多摩のケヤキが使われた (左)浴室は御影石と檜板で和風の仕上げに。洗面台も大工が造作した

先代からの木造技術の蓄積を生かし、高田工務店では、大工の手刻みによって木構造の接合部を加工する。「木のくせは1本ごとに異なるので、大工が自分の目と経験でどう刻むかを判断したほうがいい」と高田さん。集成材よりも反りや割れが生じやすい無垢材で収納など造作を行なうのはもちろんのこと、建て替え前の家の古い部材を組み込むのも同社では得意にしている。





EAST 02 DATA

● 設計・施工：高田工務店

代表・高田良晃

〒206-0811

東京都稻城市押立870-3

☎042-377-5359

● 年間建築軒数：4～5軒

● おもな建築工法：木造軸組工法

● 建築地域：東京、神奈川、埼玉の一部

● 設立：1963年

● 敷地面積：387.00m²(117.27坪)

● 延床面積：155.56m²(47.14坪)

● 1階：96.36m²(29.20坪)

● 2階：59.20m²(17.94坪)

● 用途地域：第2種中高層住居専用地域

● 建ぺい率：60%

● 容積率：200%

● 構造：木造軸組工法

● 本体工事費計：3800万円

● 3.3m単価：80.6万円

● 竣工：2008年4月

Material

[外部仕上げ]

● 屋根：ガルバリウム鋼板平葺き

● 外壁：アクリルリシン吹き付け、

ガルバリウム鋼板張り、檜節板張り

[内部仕上げ]

1階 ● 床：檜無垢板張り

● 壁：漆喰塗り

● 天井：和紙調クロス貼り

2階 ● 床：檜無垢板張り

● 壁・天井：和紙調クロス貼り

Instruments

● 厨房機器：TOTO

● 衛生機器：TOTO

撮影／長谷部 均
取材・文／渡辺圭彦

太陽熱

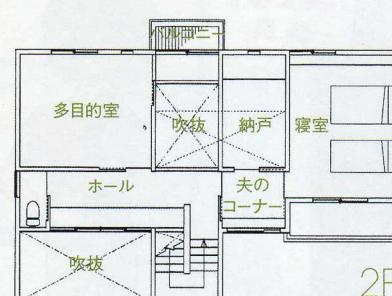
自然の力を使って
快適な室内環境を
つくり出す

高田工務店では「ハイブリッドソーラーハウス」というシステムを10年前から採用している。屋根面で集めた太陽熱で給湯を行うほか、その熱を不凍液で床下の蓄熱コンクリートに運んで床暖房も可能にする仕組みだ。H邸では、吹き抜けを通じて床暖房の暖気を1・2階に巡らせ、各室の温度を均一なものにしている。「どこにいても快適な環境なのがうれしいですね」(妻)

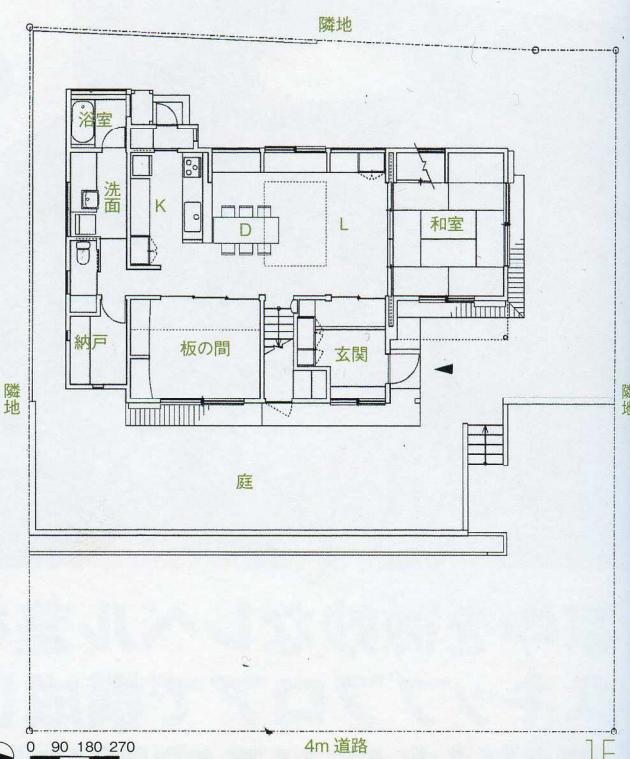


得意技
3

(右)2階には、多摩川の花火を見るためにバルコニーを設置。北東の安定した自然光と多摩川からの風を室内に取り込んでいる (左)2階のホールの一部にはデスクカウンターを付けた。1階の板の間の吹き抜けにも面しており、室内の空気の通り道にもなっている



2F



(上)社屋横の作業小屋。構造材の加工のほか、収納などの造作物もここで作製される (下)H邸の欄間は建て替え前のものを活用。新居をぐっと引き締め、落ち書きをもたらしている。



大工の父の背中を見てきた高田さんは一級建築士でもある。「設計者と職人、それぞれの発想を大事にしたい」と考え、大工や職人と一体となって家づくりに取り組んでいる。しっかりと施工状況を見るため、現場の範囲は「会社から車で1時間」が目安。高田さんは、地元の工務店として毎日走り回っている。

頼りになる工務店はこんな会社!

**国産材のストックと
大工・職人との付き合いが
私たちの財産です**

